

社会実装機関からの報告(1)

2020年3月13日

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)

社会技術研究開発センター(RISTEX)

企画運営室 調査役 浅野光基

プログラム推進体制の運営、効果的推進

• 平成27年度

- プログラム始動(12月)
- 第1回 プログラム全体会議開催(12月)
- 第1回 公開シンポジウム開催(1月 @東京)
- 第1回 マネジメント会議開催(3月)

• 平成28年度

- 第2回 プログラム全体会議開催(5月)
- 第2回 マネジメント会議開催(5月)
- 第3回 マネジメント会議開催(8月)
プログラムのマネジメント体制変更
- 自治体サイトビジット (長野県)
- ニーズ自治体等の参加 (大阪市)
- 第4回 マネジメント会議開催(2月)

• 平成29年度

- 「SI-CATの気候シナリオについて」(4月)
- 中間評価
- ニーズ自治体等の参画数拡大
 - 京都府 (8月)
 - 北海道建設部土木局河川砂防課 (10月)
 - 富山県環境科学センター (12月)
 - 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター (2月)
- PD,サブPDによる、SI-CAT研究者との個別懇談会の調整 (8~9月に6カ所)
↓ ↓
- 第1回 SI-CATダウンスケーリングデータ活用セミナー開催(12月)
- 自治体サイトビジット (岐阜県)
- 第3回 プログラム全体会議(3月)
- 第5回 マネジメント会議(3月)

※平成27~29年度 コア会議12回のほか、関係機関意見交換会を複数回開催

↓
プログラムの計画と進捗状況・課題等について認識を共有、
残期間における効果的推進を継続

プログラム推進体制の運営、効果的推進

• 平成30年度

- コア会議 第13回(4月)～第18回(4月)
- SI-CATガイドブック編集委員会
第1回(4月)～第7回(3月)
- SI-CATダウンスケーリング(DS)データ
活用セミナー 第2回(8月)



※SI-CATの若手研究者に加え、環境省地域適応コンソーシアム事業からも受講者受け入れ

⇒成果の社会実装推進のひとつの形

- 二府自治体等としての参画が民間に拡大
 - SOMPOリスクアマネジメント(株)(8月)
 - 電源開発(株)(10月)
- 自治体サイトビジット(鳥取県、2月)
- 第4回プログラム全体会議、
及び第6回マネジメント会議(3月)

• 平成31 / 令和元年度

- コア会議 第19回(6月)～第24回(3月予定)
- SI-CAT成果集
 - 研究や業務のサブ課題ごとに成果概要と説明資料で構成
 - web上にPDF形式で公開
- SI-CATガイドブック編集委員会の運営
「気候変動適応技術の社会実装ガイドブック」
 - 平成30年度末より準備着手、令和元年度編集終了
 - 全国の地方自治体で気候変動計画の立案時にSI-CATで開発された技術が活用されることを目指して、SI-CATで開発されたどのような技術が、いかに社会実装されたのかを分かりやすく解説
 - 主たる対象読者層は、河川、防災、農業、暑熱、健康、環境などの各部局の自治体職員、自治体研究機関職員、コンサルタント、研究者(初学者)、大学院生など。
 - 幅広い層の読者を想定し、極力わかりやすい内容に
 - 約230ページの構成、web上にPDF形式で公開
- PDサイトビジット
 - 長野県高森町(10月)、茨城県JAつくば市(11月)
- 成果報告会
 - webやメール等を利用しての実施

プログラム全体としての成果の集成

気候変動適応技術社会実装プログラム

Social Implementation Program
on
Climate Change Adaptation Technology

成果集

SI-CAT実施体制

社会実装体制

全国的自治体等

モデル自治体等

SI-CAT実施体制

全国的自治体等

モデル自治体等

気候変動適応技術の社会実装ガイドブック (編集委員会事務局)

<頒布先>

国(文科省、環境省、農水省、気象庁)、自治体(環境部局、土木部局、防災・河川部局等)、地方環境研究所、民間企業、大学、研究機関、NPO、一般の方々、およびSI-CAT参画機関・研究者

01 気候変動適応技術の社会実装

1.1 SI-CATの概要

1.2 社会実装の意義

1.3 社会実装の課題

1.4 社会実装の推進体制

1.5 社会実装の推進手法

1.6 社会実装の推進事例

1.7 社会実装の推進の展望

1.8 社会実装の推進の留意事項

1.9 社会実装の推進のまとめ

1.10 社会実装の推進の参考文献

1.11 社会実装の推進のお問い合わせ先

